



盛岡市の北山寺院群地区は、藩政時代からの由緒ある寺院が建ち並ぶ寺町だが、この地区を縦貫する県道の拡幅を契機に、県、市、寺院、電力会社が一体となって寺院群地区の個性をいかした街路景観を創出した。

歩道に御影石風化粧平板の使用、無電柱化、地場産品の南部鉄器を素材とした街路灯や車両感知機の採用、拡幅により道路敷にかかるケヤキの保存、ナツツバキの街路樹など、寺院地区にふさわしいアメニティー豊かな工夫を施すとともに、全寺院の塀が築地類似塀に修景され、新しい寺町としての雰囲気をも出し出している。

データボード[®]63

- ① 岩手県盛岡市名須川町7番
- ② 延長442m、幅員16m
- ③ 歩道、街路灯、寺院の塀
- ④ 御影石風化粧平板、南部鉄器製街路灯、築地類似塀など